

Azure OpenAI Service リファレンスアーキテクチャ

JTP株式会社



© JTP Co., Ltd. All Rights Reserved.

Confidential

Agenda

- サービス概要
- アーキテクチャ図
- 考慮事項
- バリデーション用検証環境情報

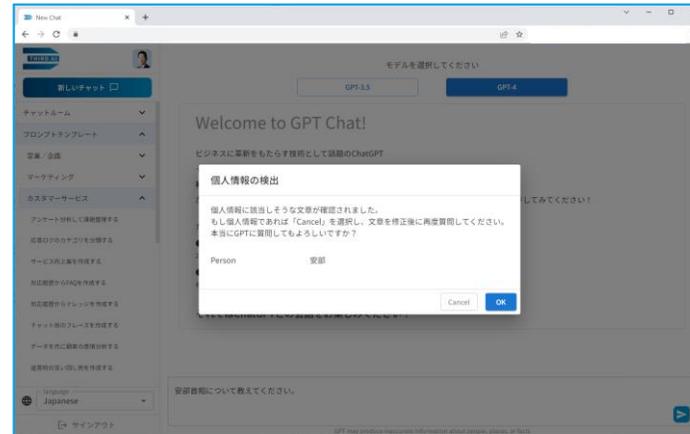
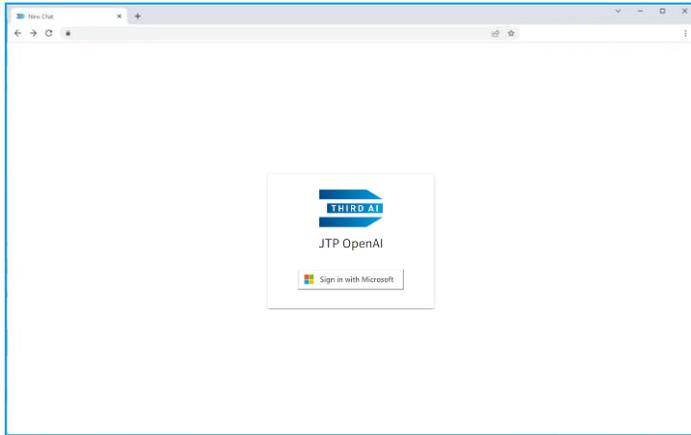


サービス概要



Third AI OpenAI サービス

「Azure OpenAI Service リファレンスアーキテクチャ賛同パートナー」が提供する、高セキュリティなChatGPT環境
「Third AI OpenAI サービス」を提供いたします。



1. 実績のある高セキュリティのAzure OpenAI Service利用環境を貴社Azure環境にシングルテナントで提供
2. SaaS環境のためアップデートの恩恵を受けることが可能
3. GPTを有効に活用するためのプロンプト集を提供
4. SMAL認証によるシングルサインオンに対応
5. 活用の対話履歴はデータベースに格納され、後ほど活用可能
6. 必要に応じてお客様社内データの取り込み、個人情報検出機能もオプションで提供



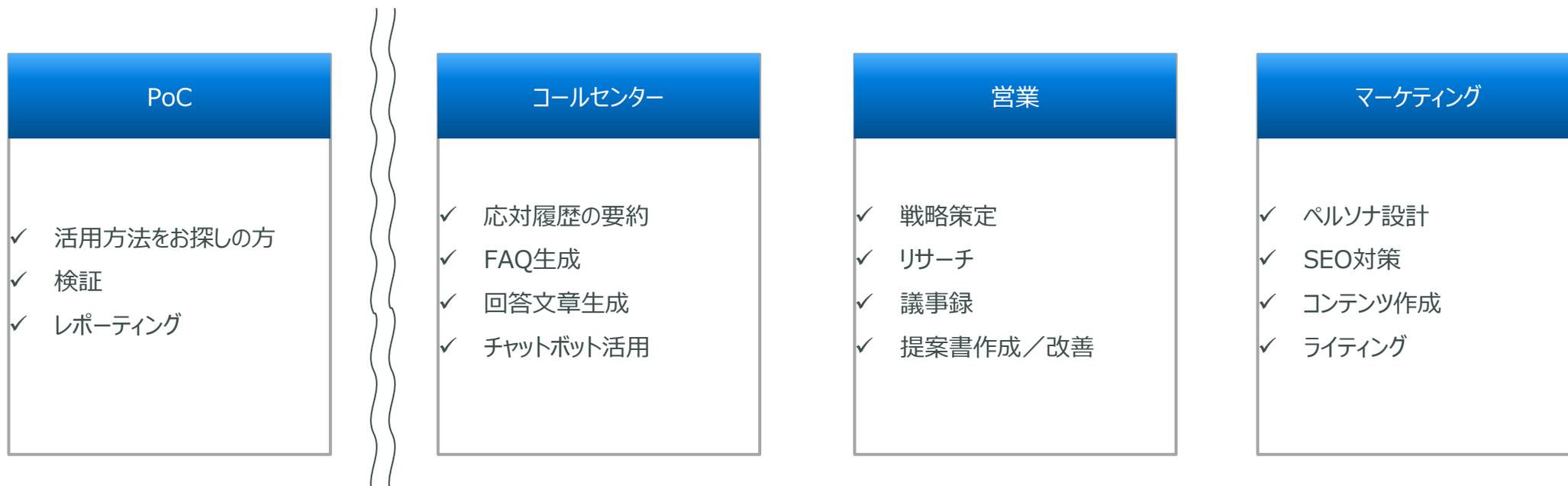
© JTP Co., Ltd. All Rights Reserved.

実際のサービスUI



業種・業務シナリオ概要

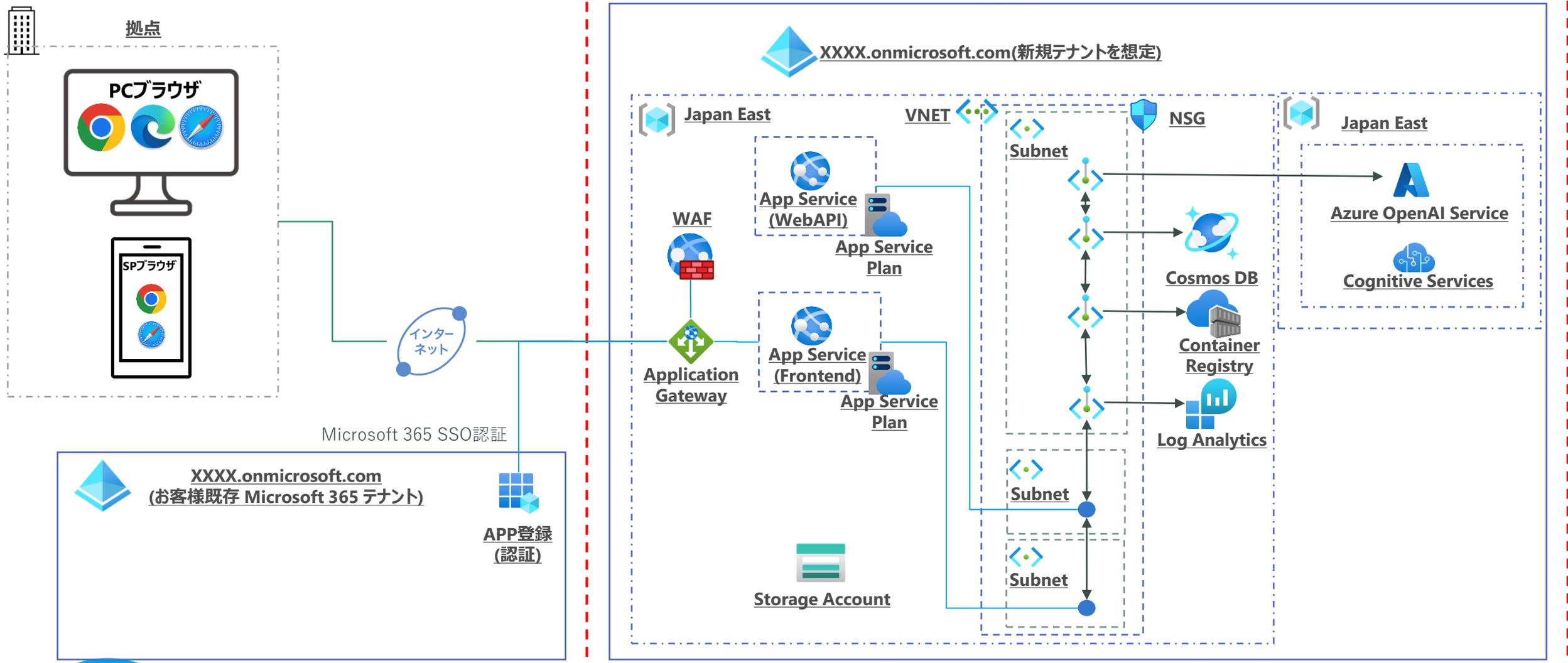
Azure OpenAI Serviceを活用しさまざまな業種の業務効率化を実現します。
例として以下のような場面が挙げられますが、ビジネス用途の活用方法をお探しの企業様には検証から支援いたします。
セキュアな検証環境の提供からトレーニングまで一括でサポートし、ビジネス適用のフィジビリティを策定します。



アーキテクチャ図



参考 : Azure構成図



考慮事項



Azure Well-Architected Framework観点での考慮事項 (1)

Microsoft Azure Well-Architected Framework

信頼性(可用性)

- Azureのサービスでは「可用性ゾーン」や「リージョン」といった単位で可用性を設計しており、これらを適切に組み合わせることで、ビジネスクリティカルなワークロードの信頼性を実現するように設計することが可能です。詳細は「[Azure リージョンと可用性ゾーンとは](#)」をご参照ください。
- このシナリオで用いられているApp Service、Azure OpenAI、Azure Cognitive Service、Azure Cosmos DB 等のコンポーネントはそれぞれゾーン冗長やリージョン冗長、geoレプリケーションなど高可用性のオプションや構成を利用可能です。必要となる可用性に応じて導入を検討してください。複数リージョン間/複数ゾーン間でAct-Act構成を取る場合にはAzure Front Door、Azure Application Gatewayなどの利用をご推奨します。

信頼性(回復性)

- アプリケーションの正常性を監視するために、このシナリオでは Log Analytics を使用しています。Log Analytics を使用すると、異常時のログを迅速に分析し対応することができます。
- 回復性に関するその他の記事については、「[信頼性の高い Azure アプリケーションを設計する](#)」を参照してください。

セキュリティ

- セキュリティは、重要なデータやシステムの意図的な攻撃や悪用に対する保証を提供します。詳細については、「[セキュリティの重要な要素の概要](#)」を参照してください。
- このシナリオでは、Azure ADを使用してユーザーを認証します。また、Cosmos DB 等のデータソースへは、VNET経由のアクセスのみを許可しています。
- セキュリティで保護されたソリューションの設計に関する一般的なガイダンスについては、「[Azure のセキュリティのドキュメント](#)」を参照してください。

Azure Well-Architected Framework観点での考慮事項 (2)

[Microsoft Azure Well-Architected Framework](#)

コスト最適化

- 不要な費用を削減し、運用効率を向上させる方法をご検討ください。詳しくは、「[コスト最適化の柱の概要](#)」に関する記事をご覧ください。

オペレーショナルエクセレンス

- システムの健全性の担保、トラブルの解決、利用動向の監視を行うためには適切な監視とログ収集が必要となります。詳細は「[ワークロードの監視](#)」をご参照ください。本構成を用いることによりAPIの適切な利用を担保することが可能となります。
- ソフトウェアのアップデートや脆弱性への対応など、ソフトウェア/インフラ設計の改修を円滑に進められるよう、DevOpsプロセスを確立してください。詳細は「[リリース エンジニアリングの継続的インテグレーション](#)」をご参照ください。

パフォーマンス効率

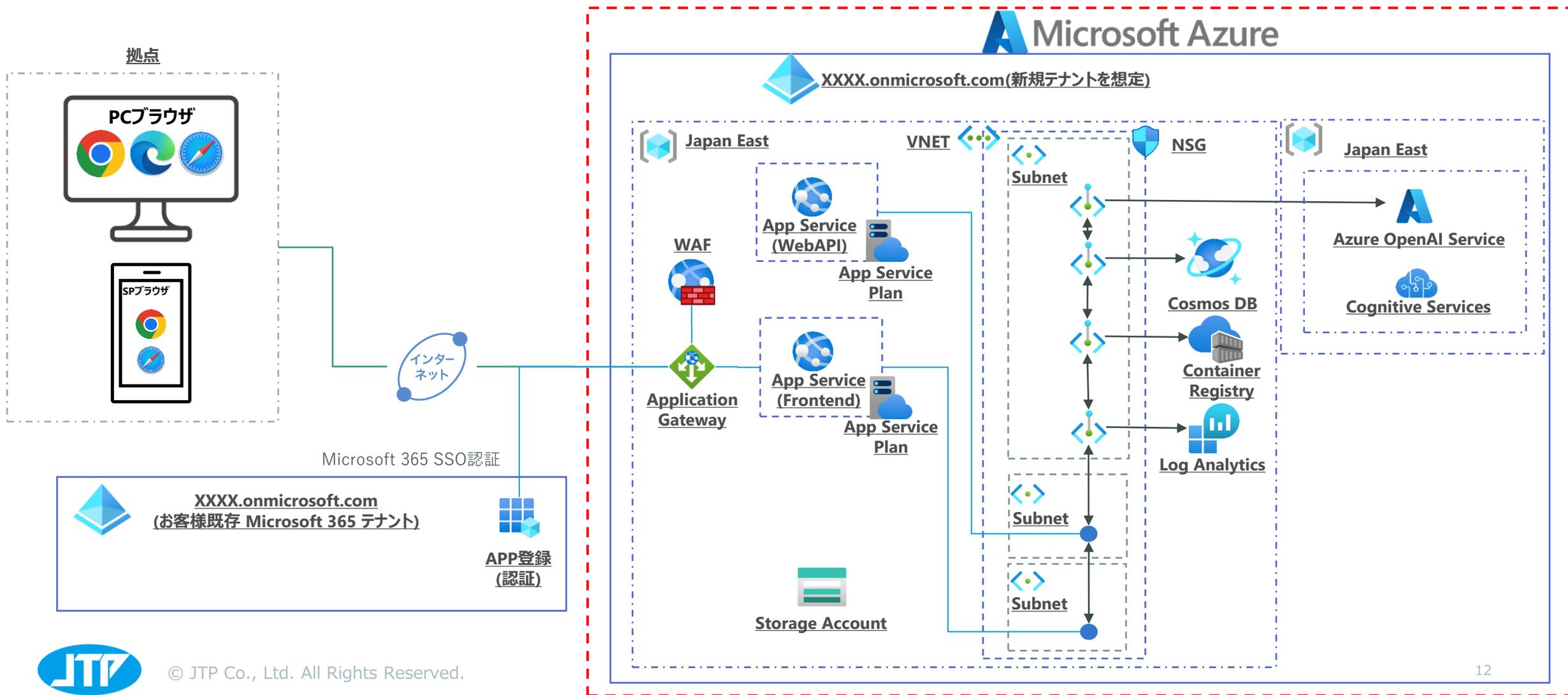
- アプリケーションの負荷が高まることを見越し、スケーラビリティの確保をあらかじめ検討することは重要です。詳細は「[スケーリング用のアプリケーションを設計する](#)」をご参照ください
- App Serviceは負荷に応じて水平にスケールさせることが可能です。詳細については「[自動スケーリングを有効にする方法](#)」をご参照ください
- API Managementを用いて複数のAzure OpenAI間でロードバランシングすることが可能です。Azure OpenAIのモデル毎Quotaを上限まで引き上げても処理量が足りない場合にご検討ください
- 特定のユーザーにAzure OpenAIの利用が集中することを避けたい場合には API Management によるスロットリング導入などをご検討ください。詳細は「[Azure API Management を使用した高度な要求スロットル](#)」をご参照ください。

バリデーション用検証環境情報



検証環境情報

デモについてはお打ち合わせにて動作等、提示いたします。





© JTP Co., Ltd. All Rights Reserved.

Appendix



会 社 名

JTP 株式会社



本 社 所 在 地

東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー

設 立

1987年10月31日

従 業 員

435名

上 場 市 場

東証JASDAQスタンダード 証券コード2488

事 業 内 容

海外 I Tメーカー教育・保守・運用等 アウトソーシング事業
海外医療機器の法規制対応・販売・保守
人工知能サービス開発



認 定 パ ー ト ナ ー

Microsoft ソリューションパートナー
AWS アドバンスドコンサルティングパートナー
LINE テクノロジーパートナー Advanced
IBM Silver Business Partner
SoftBank ONE SHIP
Google Cloud Partner



Communication

Excellence Award
Japan 2020

